

(様式2)

令和5年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和5年9月12日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者（申請者）

所 属 芸術地域デザイン学部

職 名 准教授

氏 名 石井美恵

下記のとおり令和5年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	開館間近・大エジプト博物館のいま！ ファラオの至宝をまもる 2023：JICA 大エジプト博物館開館支援事業		
2.事業責任者 (申請者)	石井美恵	3.所属・職名	芸術地域デザイン学部 准教授
4.開催期間	令和 5 年 8 月 6 日		
5.申請区分	A) 学術交流協定（大学名） B) 共同研究 C) 一般		
6.参加者数 ※参加者名簿（別添） を添付	参加者数 315 名 内、外国人数 名、研究者数 名、 学部学生数 3名、修士以上学生数 9 名 *主催者である東京文化財研究所が分けて集計していないため不明ですが、主催者が集計したアンケート資料を添付します。		
	所 属 職 名 氏 名		
8.支出額	金 額 200,000 円 【内訳】 業務委託（クリアファイルデザイン費） 99,000 円 印刷製本（クリアファイル印刷費用） 66,000 円 旅費（東京⇄佐賀） 34,730 円		
9.国際研究集会の内容（実施の様子について、2～3枚程度写真をご提供ください） （日本・JICA、東京文化財研究所、東京国立博物館、東京藝術大学、筑波大学） （相手国・地域：アラブエジプト共和国 相手国機関：大エジプト博物館）			

開館間近・大エジプト博物館のいま！

ファラオの至宝をまもる 2023：JICA 大エジプト博物館開館支援事業

趣旨

2006 年から日本は円借款で大エジプト博物館の建設を支援してきました。また、2008 年から大エジプト博物館開館支援事業としてエジプトの保存修復専門家の人材育成を実施してきました。2019 年から実物遺物の共同保存修復事業は始動し、東京藝術大学と日本国際協力センターが共同事業体として古王国時代の壁画、新王国時代のツタンカーメン王の戦車、ベッド、服飾品の保存修復を行っています。今回、開館目前の大エジプト博物館の筆頭研究者であるアーテフ・ムフタファ氏、アイーサ・ジダン氏、アシュラフ・モーヒーイッディン氏を招聘し、加えて東京藝術大学大学院に留学中の若手研究者のモハメド・アヤド氏と日本の研究者により共同研究の最前線と、開館間近の博物館の見どころについて講演会を開催します。

20 年におよぶ日本のエジプト人文化財専門家の人材育成の成果と、将来の両国のさらなる連携、共同研究の展開が期待できる内容です。

会場：東京国立博物館講堂

プログラム 13:00-16:30

総合司会：山田綾乃（東京文化財研究所文化遺産国際センター・アソシエートフェロー）

13:10 ご挨拶 松永秀樹（JICA 中東欧州部長）（5 分）

大エジプト博物館建設支援事業の全体像

13:15 基調講演 大エジプト博物館の開館に向けて（10 分）

鈴木彰（大エジプト博物館第一館長補） イントロダクション

13:30 アーテフ・ムフタファ（実質的な館長）（30 分 英語/アラビア語講演 15 分+通訳 15 分）

14:00 パネルトーク1 古代エジプト遺物の保存修復と展示の現場

司会：友田正彦（東京文化財研究所副所長兼文化遺産国際協力センター長）（5 分）

テーマ： 保存活用（展示）を見据えた「修復」とは？三次元コンテンツなど

14:05・古王国時代の壁画の修復と展示の見所 谷口陽子、西坂朗子

14:25・ツタンカーメンコレクションの修復と展示の見所

（木製品）岡田靖、河合望

（染織品）モハメド・アヤド、石井美恵

15:45・船の修復と展示の見所 アイーサ・ジダン、黒河内宏昌

15:05 質疑応答（10 分）

15:15-15:30 休憩

15:30-16:10 5. パネルトーク2 大エジプト博物館への期待 ～複合施設として、社会的役割～

司会：鷲田智憲（JICA 中東欧州部大エジプト博物館担当）または

清水麻衣子（大エジプト博物館マネジメント支援専門家（メディア活用））

テーマ： 博物館の社会的役割と、複合施設として今後

- ・大エジプト博物館のギザ遺跡と GEM General Director of Giza Archaeological Area
- ・TBD (山内和也／青木繁夫)
- ・アシュラフ・モーヒーイッディン
- ・大エジプト博物館へのマネジメント支援 鈴木彰 (大エジプト博物館第一館長補)
- ・世界遺産と博物館 藤原誠 (東京国立博物館館長・元ユネスコ代表部)
- ・博物館に期待される役割 栗原祐司 (国立科学博物館副館長・ICOM 日本委員会副委員長)
- ・日本の博物館との連携 半田昌之 (ICOM 日本委員会事務局長)

16:10-16:20 質疑応答 (10 分)

16:25-16:30 閉会挨拶 齊藤 孝正 (東京文化財研究所所長)

10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

JICA 大エジプト博物館事業に関する大規模なシンポジウムが 2023 年 8 月 6 日に東京国立博物館平成館講堂で開催されたで、本事業に一般の関心を集めることができた。定員の申し込み制であったが、開催日の 3 週間前に定員に達し、当日は 400 名収容のところ、315 名の一般来場者があった。シンポジウムは 2023 年 8 月 16 日の読売新聞にも取り上げられた。佐賀大学芸術地域デザイン学部は共催者ならびに石井美恵が講演者としてシンポジウムに関わった。本事業の助成金は会場で配布する資料を入れる PR 用のクリアファイルのデザインと印刷そして、石井の旅費で活用した。クリアファイルは佐賀大学の卒業生であるデザイナーに依頼し、洗練されたデザインはたいへん好評であった。石井の講演では、科研での最新研究を交え、佐賀大学で行っている古代エジプトの服飾研究について新しい発見についても発信した。会場が東京であったため、佐賀大学の学部と大学院の学生は参加できなかったが、就職で東京に在住する卒業生 2 名が聴講にきた。学部の授業で課題として取り組んだ学習が世界につながっていたと感想を述べていた。JICA からは、佐賀大学が分担制作した PR 用のクリアファイルについて感謝の言葉があった。今後もこのような場を通じて佐賀大学をアピールしつつ事業に貢献してゆく予定である。



11. 実施者アンケート

本事業の満足度（5（非常に良い）～1（非常に悪い））：5

支援経費は適切であったか（5（非常に適切であった）～1（非常に適切でなかった））：5

次年度以降も本事業の実施を希望するか：希望する

そのほかコメント：

東京文化財研究所のアンケート資料を参照してください。